

2018年10月31日

2018年度第2四半期決算説明会 質疑応答サマリ

沖電気工業株式会社

Q: 通期の見通しに関して据え置いたけれども、超過達成については自信を持たれているとのことだったが、プリンターで中国のリスクとしてアメリカ向けの輸出に将来関税がかかる可能性があるため据え置いたということか、もう少し解説をお願いしたい。また、プリンター以外に懸念されていることがあればご紹介いただきたい。

A: ご質問の趣旨は、なぜ通期での上方修正をしないのかということ、まずプリンターと中国の米中関税影響についてかと思う。プリンターでは、第2四半期累計は想定以上の数字を上げることができた。特に第1四半期の貯金をそのまま半期でも持ち越せたのが大きい。貯金には大きく三つの要因があったと考えていて、一つは消耗品の増加。特に米国での販売ルートを集約したことによるもので、これは一時的な効果と思っている。次に、米中摩擦の影響を価額に転嫁すべく値上げについてアナウンスをしており、消耗品等も含めて一部前倒し発注があったのではないかと考えている。また、今進めているインダストリー領域で、第3四半期以降の計画だった案件が前倒しで一部入ってきたため、消耗品を中心に第2四半期累計は好調に推移した。

ただ経営としては、これらの前倒しが第3四半期以降の事業計画にどのような影響を与えるのかをもう少し精査したいと考えている。例えば値上げの告知によって前倒しした分は、当然買い控えが出てくる。また、大口クライアント向けの商材等についても、これからどのような動きになるのかももう少し見極めたい。

米中の影響でいうと、やはり主力工場が中国にあるため新たな関税について懸念しており、トナーについて若干影響が出てこないとも限らないと思っているが、それだけが大きい要因ではない。

他の事業については、今のところ情報通信とEMSは巡航速度かそれよりも若干強含みで推移していると考えている。メカトロは、期初にお約束した通りマイナスはきちんと止めた。ただ、われわれの目標はメカトロ全体で±0で、逆にここは第1四半期の借金を返していかないといけない。今それなりの手応えを感じながらやっているが、ここがきちんとプラスになるかももう少し見極めたい。

Q: 第2四半期累計の売上と利益の為替影響について、セグメント別に教えてほしい。

A: 営業利益の前年比為替影響+15億円の主な内訳としては、メカトロで+2億、プリンターは+10億程度。売上はメカトロで▲15億、プリンターで+5億、トータルで大体▲10億。

Q: メカトロの売上高公表計画 400 億円に対して実績が 385 億円、計画比 15 億円減収の要因は。

A: ほぼ機種構成差によるもの。

Q: メカトロの売上が計画比 15 億円未達で、利益が 2 億円減にとどまっているのは、構造改革の効果が想定より出ているのか、計画通りなのか。構造改革の進捗とその効果がどのように出ているのか。

A: 今までメカトロ全体の四半期の損失がだいたい 15 億。特にブラジルの影響が大きかったため、リストラを 7 月の初旬から進めた。ブラジルの保守業務、製造業務、販売、このうち特に赤字が多かったのは製造と、一部保守。ここについてリストラを行ったため、ほぼ製造についてはコストがかからなくなり赤字が出なくなった。保守について、若干ではあるがイーブン以上を確保できるようになったことで、ブラジルは 7 月以降大きな赤字が出ない体質になった。

Q: 製造が赤字でなくなって、今後、例えば売上が計画に届かないことがあっても、その部分の固定費負担は十分に削減されているという理解でいいか。

A: 基本的にはそういう理解。保守は相当程度筋肉質に、少なくとも大きな赤字が出る態勢からは立て直しができたと考えている。

Q: プリンターの消耗品についてディストリビューターの発注が第 1 四半期に結構膨らんだ話があったと思うが、第 2 四半期および足元はどういう状況になっているのか。

A: 第 2 四半期だけを見る限り、特に大きな反動は起きておらず、巡航速度、ほぼ計画通りの推移となっている。第 3 四半期以降どうなるのかは注視していく。

Q: ATM の台数を伺いたい。

A: 今年度第 2 四半期累計の実績で、国内全体で 4,700 台うち、コンビニ向け 3,400 台。前年同期が 3,700 台うちコンビニ向け 2,600 台で+1,000 台。中国が今年度 700 台、前年同期が 1,200 台で 500 台のマイナス。その他海外は 1,900 台。前年同期が 1,600 台で+300 台。

Q: 情報通信で開発プロジェクトのプロジェクト・マネジメントを行っている結果、採算が改善しているということだったが、もう少し詳しく伺いたい。

A: 情報通信の IoT 関連案件では 1 社で全部やるのではなく、いろいろなところといろいろな大きなプロジェクト・マネジメントを行っている。また、新しい案件も多いため、当初見込んでいなかった何らかのコストが、残念ながら発生していたのがこれまで。これらの採算管理について、何か特別な取り組みを行ったということではなく、プロジェクトにつ

いて、より事業本部長以下注視していくことで早目の手を打ちながら少しずつ改善をし、その結果、今年度については大きなコストが出ることなく推移していると考えている。

(注) 本資料における予想、見通し、計画等は、現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断される一定の前提に基づいております。したがって実際の業績は様々な要因により異なる可能性があります。なお、内容につきましては理解しやすいように部分的に加筆・修正をしております。